

「どうして、今の時代の者たちはしるしを欲しがるのだろう」(マルコ8:12)

村田 稔 神父

ファリサイ派の人々が来て、イエスを試そうとして、天からのしるしを求め議論をしかけた。「どうして、今の時代のものたちはしるしを欲しがるのだろう。はっきり言うておく。今の時代の者たちには、決してしるしは与えられない。」

四旬節の迎えるにあたり、マルコ福音書8章11-13節をもとに、皆さんに次のメッセージを伝えていきたいと思ひます。ファリサイ派の人々はイエスの立派な言葉や素晴らしいしるしを、見たり聞いたりしたはずです。しかし、彼らはイエスにしるしを求めました。しるしの持つ意味を知るには、まずしるしを示す人を信頼しなければなりません。

イエスを信じないファリサイ派の人たちにとっては、イエスのどんなしるしも意味のないものでした。

わたしたちも沢山のしるしをイエスから与えられています。イエスを信じなければ、愛さなければ、このしるしは見えません。イエス様のしるしは色々な人々の叫びや訴えの中に見ることが出来ます。しかし、それらの人々を信頼しなかったり、尊重する気持ちがなかったら、しるしはわたしたちの心に届きません。四旬節に向かって、心を改めイエス様のしるしがよく見えるように、わたしたちは困っている人、苦しんでいる人を大切に、彼らの叫び、訴えが聞こえるように努力いたしましょう。

“Why does this generation ask for a sign?” (Mark 8:12)

Fr. Murata

As we prepare ourselves to the Lenten season, I would like to share the following message with you based on Mark 8:11-13. The Pharisees must have heard and seen the fine words and wonderful signs of Jesus. But they asked Jesus for a sign. For a sign to be meaningful, you have to trust the one who shows you the sign. So, it's clear that the Pharisees who did not believe in Jesus, any sign of Him was meaningless to them.

We, too, have been given many signs by Jesus. If we don't believe in Jesus or don't like Him at all, we don't see these signs. The signs of Jesus can be seen in the cries and complaints of many people. But if we do not trust or like them, we will not hear them.

As we head into the Lenten season, let us change our hearts so that we can see the signs of Jesus better, so that we can care for those who are in need and suffering, listening to their cries and complaints.

“Sao thế hệ này lại xin một dấu lạ?” (Mác-cô 8:12)

Cha Murata

Khi chúng ta chuẩn bị để bước vào Mùa Chay, tôi muốn chia sẻ một thông điệp sau đây với các bạn theo Thánh Mác-cô 8:11-13. Người Pharisêu ác hản đã nghe thấy những lời tốt đẹp và những dấu lạ kỳ diệu của Chúa Giêsu. Nhưng họ đã đòi hỏi Chúa Giêsu một dấu lạ. Để một dấu lạ có ý nghĩa, bạn phải đặt lòng tin vào người mà chỉ cho ta dấu lạ. Như vậy, rõ ràng những người Pharisêu đã không tin vào Chúa Giêsu, nên bất kỳ dấu lạ nào của Ngài là đều vô nghĩa với họ.

Chúng ta cũng đã được Chúa Giêsu ban cho nhiều dấu lạ. Nếu chúng ta không tin vào Chúa Giêsu hoặc không thích Ngài tí xíu nào, chúng ta sẽ không nhìn thấy những dấu lạ này. Các dấu lạ của Chúa Giêsu có thể được nhìn thấy trong những tiếng kêu than và phàn nàn của nhiều

người. Nhưng nếu chúng ta không có lòng tin hoặc thích chúng, chúng ta sẽ không thể nghe thấy chúng.

Khi chúng ta đang ở đầu Mùa Chay, chúng ta hãy thay đổi tâm hồn để nhìn rõ hơn những dấu lạ của Chúa Giêsu, để chúng ta có thể biết quan tâm hơn đến những người túng thiếu và đau khổ, lắng nghe những tiếng kêu than và phàn nàn của họ.

- # - \$ - \$ - # - # - \$ - \$ -



教皇フランシスコメッセージ 「コロナの世界を生きる」抜粋(10)

第二部 選ぶとき(6)



他者を責めるのは、神をおろそかにする行為です。一方、自分を責めるのは神に心を開く行為です。神の前では、罪人でない人はいません。しかし、自分の罪を悔い、過ちを恥じている人は誰であれ許されます。そうすれば、私達は自分と対立する相手と見なさなくなります。自分を責める行為は、孤立した良心というウイルスに対する解毒剤であり、神の前で謙虚になることこそ、友愛と社会の平和を解き放つ鍵なのです。

自分が孤立した良心を抱える状態に陥っても、他人のせいにははいけません。「疑惑と思い込みは悪意に満ちており、決して魂に安息をもたらしてはくれない」のです。

ひとりよがりの自我は、支配的で怒りっぽく、自己弁護に走ります。それが蔓延すると、社会は分断と分裂の危機にさらされます。そして教会も、その影響を受けずにはいられません。

政治と社会とメディアがそれぞれの主張を声高に叫び、互いに相手をつぶそうと権力闘争を繰り返していたら、私達はどのように行動すべきでしょうか?言葉での攻撃が激しさを増すのは、自らの本質を見失っていることの反動です。他人を貶めることで安心感を得て、他人を黙らせることに正当性を感じるのです。世の中から誠実な対話が失われると、同じ地平線を目指して共に歩むことは一層困難になります。

両極化が固定してしまうと、世の中は双方の覇権争いに陥ります。私は2015年にアメリカ合衆国議会で行った演説で、全てを善か悪、あるいは正義か罪かに色分けする過度な単純化主義に警鐘を鳴らしました。「現代社会は開いたままの傷を抱えており、多くの兄弟姉妹がその影響を受けています。その中で私達は、社会を善と悪の二つの領域に分断する、あらゆる種類の分断化に立ち向かわなければなりません。私達は、外部の敵から自由になろうとして、得てして内部の敵を育ててしまいやすいものだからです。」

私が「内部の敵」について触れたのは、両極化の根は心にもあるからです。古代、悪魔は「大いなる糾弾者」と呼ばれていました。悪魔の住処は言葉の暴力、中傷、過剰な残酷性の中にあります。そこには足を踏み入れないようにしましょう。糾弾者とは口論や会話をしてはなりません。なぜなら、それは相手の理屈を受け入れることになるからです。

イエスがしたように、別の方法で抗い、突き放さなくてはなりません。新型コロナウイルスと同様、両極化のウイルスも宿主から宿主へ感染することができなければ、いずれは消えていくことになります。

私たちの課題は両極化に関わらないようにすることではなく、両極化に陥らないように衝突や不和と向き合うことです。それはつまり、分断を超越する新しい考え方を生み出して、分断を解消することです。コロナ禍において、それこそが私たちの最重要課題です。私達は様々に異なる見解を高い水準で調和させるための対話をすべきなのです。

木和を「抱えて」、それを新しいプロセスに繋げることは、全ての人々にとって価値ある

任務です。イエスの「平和をつくり出す人たちは幸いである」(マタイによる福音書5:5)

という言葉は、この任務を指しているのです。

クリスマス献金の寄付先について

和泉教会評議会会長 古木 弘子

和泉市方町にあるいこいの家「英(はなぶさ)」に2月9日、新田さんと訪問させていただきました。

高齢になっても障害があっても、地域の誰もが気楽に来て、元気に楽しんでいただける居場所を作りたいとお考えで、当日は「手話塾」も開催されていました。

いこいの家にある畑で収穫したお野菜などの販売もあり、平日は10時～16時まで手作りケーキと飲み物セットを400円で提供されていました。手探りで、障がいのある方達や地域の方々と共に歩んで行こうという思いがひしひしと伝わって来ました。

昨年9月に、聴覚障がいのある高橋英子さんために何かしたいと思っておられた、英子さんの弟さんが、私財を投じてハウスを建てられました。残念ながら、英子さんは昨年7月に亡くなられたのですが、当初の思いを受け継ぎ、いこいの家の建設を早められました。英子さんの生前には建築が間に合わなかったのですが、英子さん(聴覚障がい者)のためという思いが、いろいろな方々の賛同を得、開所に至ったそうです。

クリスマス献金をお渡しさせていただきました。少しでも活動の足しにはなるのではと幸いです。大変喜んでいただきました。

2023年度「四旬節黙想会」実施要項

開催日時 2023年3月19日(日) 11:00~14:00

開催場所 カトリック浜寺教会

テーマ 「エマオへの道」(ルカ24,13-35)

シノドス イエスと共に歩む「燃える心で」

指導司祭 アントニウス・ハルノコ神父 (カトリック淳心会、日本地区長)

ミサ時間 3教会(浜寺、和泉、岸和田)とも 9:30より

・浜寺教会には浜寺信徒並びに黙想会参加者が出席。

黙想会スケジュール

11:00~12:00 司祭講話

12:00~12:20 個人黙想

12:20~13:00 昼食

13:00~13:45 分かち合い

13:45~13:50 代表者による気付き

13:50~14:00 まとめ、派遣の祝福

*司祭講話は、共生として外国人信徒向けに英語を交えて実施。

各小教区にて日本人だけでなく、外国人信徒へ積極的に勧誘を行う。

* 昼食は各自で黙食、自家用車の中など。

弁当希望者は各小教区にてとりまとめ、1週間前3月12日までに

浜寺教会(三宅さん)に発注。弁当代500円。(3司祭分、3食用意)。

*分かち合いは、1G:5~6人 8G予定。

聖堂3カ所(聖堂、ミーティング、泣き部屋)、エマオ2カ所、信徒会館2カ所

ファシリテータ、(末永、梅木)、小山、元坂、三宅、渡辺、松本、林、予定。

*司会進行: 渡辺

*開催ポスター作成(小山さん)

- # - \$ - \$ - # - # - \$ - \$ -

四旬節期間の十字架の道行きについて

期間: 2月24日から3月31日の毎週金曜日(2月24、3月3、10、17、24、31日)

時間: AM9:30から(初金の3月3日はミサ後)

たくさんの方のお祈りをお願いいたします。

3月主日ミサ予定	浜寺 9時30分	和泉 9時30分	岸和田 9時30分
5日(日) 四旬節第2日	村田 1400ベトナム語トランプ	ジュアン 評議会	ロペス
12日(日) 四旬節第3日	村田 評議会 1100ベトナム語 イッポト	ロペス	ジュアン 評議会
19日(日) 四旬節第4日	ジュアン 11:00ブロック黙想会	ロペス	村田
26日(日) 四旬節第5日	ロペス	ジュアン	村田 11:00英語 村田

~3月の予定とお知らせ~

※聖書100週間の分かち合い・毎週土曜日14時30分(Sr.ルイザ担当)



3日(金)初金曜日ミサ 9:30~ 村田神父
5日(日)ベトナム語 13:00~ゆるしの秘跡 14:00~ミサ 浜寺教会
19日(日)ブロック黙想会 11:00~ 浜寺教会
黙想会に行かれる方は浜寺教会の9:30~のミサに与ってください。



3月の典礼 奉仕当番	先唱	朗読	共同祈願
5日(日) 四旬節第2日	五末 光政	ロッチ 西川 保彦	レイシエル 喜山章次郎
12日(日) 四旬節第3日	瀬上 和昭	勝田恵美子 五末 光政	中原ミヨ子 堀川 康弘
19日(日) 四旬節第4日	小野田 裕	渡辺ひろみ 堀川 康弘	森 郁枝 木村 副見
26日(日) 四旬節第5日	西川 保彦	中原ミヨ子 小野田 裕	福田 京子 渡辺 直彦